

根室市民の男女共同参画に関する意識調査報告書
(速報版)

令和 6 年 10 月 23 日

目次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査目的.....	1
2. 実施概要.....	1
(1)調査対象.....	1
(2)調査方法.....	1
(3)調査期間.....	1
(4)回収状況.....	1
II. 調査結果.....	2
1. 回答者の属性.....	2
2. 男女共同参画意識.....	3
(1) 性別による無意識の思い込み・偏見について.....	3
(2)家庭における男女共同について.....	7
(3)女性の仕事について.....	10
(4)学校における男女共同について(回答は学生のみ).....	11
(5)職場における男女共同について(回答は学生以外のみ).....	11
(6)地域社会における男女共同について.....	15
(7)DV被害について.....	16
3. 根室市の男女共同参画について.....	17
(1)根室市男女共同参画基本計画を知っている市民割合.....	18
(2)根室市の男女共同参画の取り組みを知っている市民の割合.....	19
(3)根室市において男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み.....	19
4. 多様性について.....	21
(1)一人ひとりの多様性が尊重される社会を目指す必要性について.....	21
(2)パートナーシップ制度の導入を目指す必要性について.....	21
5. その他意見、自由意見.....	23

I. 調査の概要

1. 調査目的

「第3次根室市男女共同参画基本計画」を策定するに当たって、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し計画策定の参考とするため、令和6年8月20日から1ヶ月間、アンケート調査を実施しました。

2. 実施概要

(1)調査対象

中学生以上の全ての根室市民（令和6年7月末現在値 20,986人）

(2)調査方法

オンライン回答

(3)調査期間

令和6年8月20日～令和6年9月20日

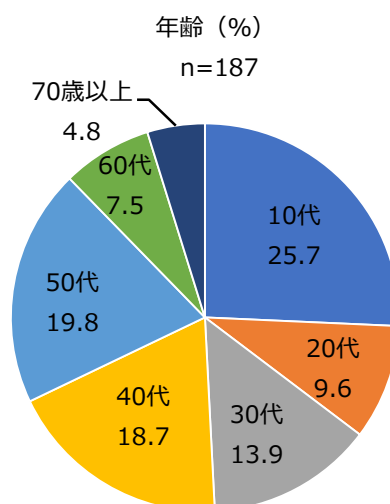
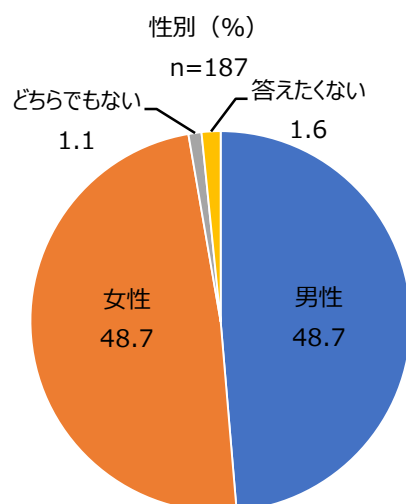
(4)回収状況

回収数 187件

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性

- ・ 回答者は男性 48.7%、女性 48.7%と男女比が1：1である。
- ・ 年齢構成は10代(25.7%)が最も多く、次いで50代(19.8%)、40代(18.7%)が多い。



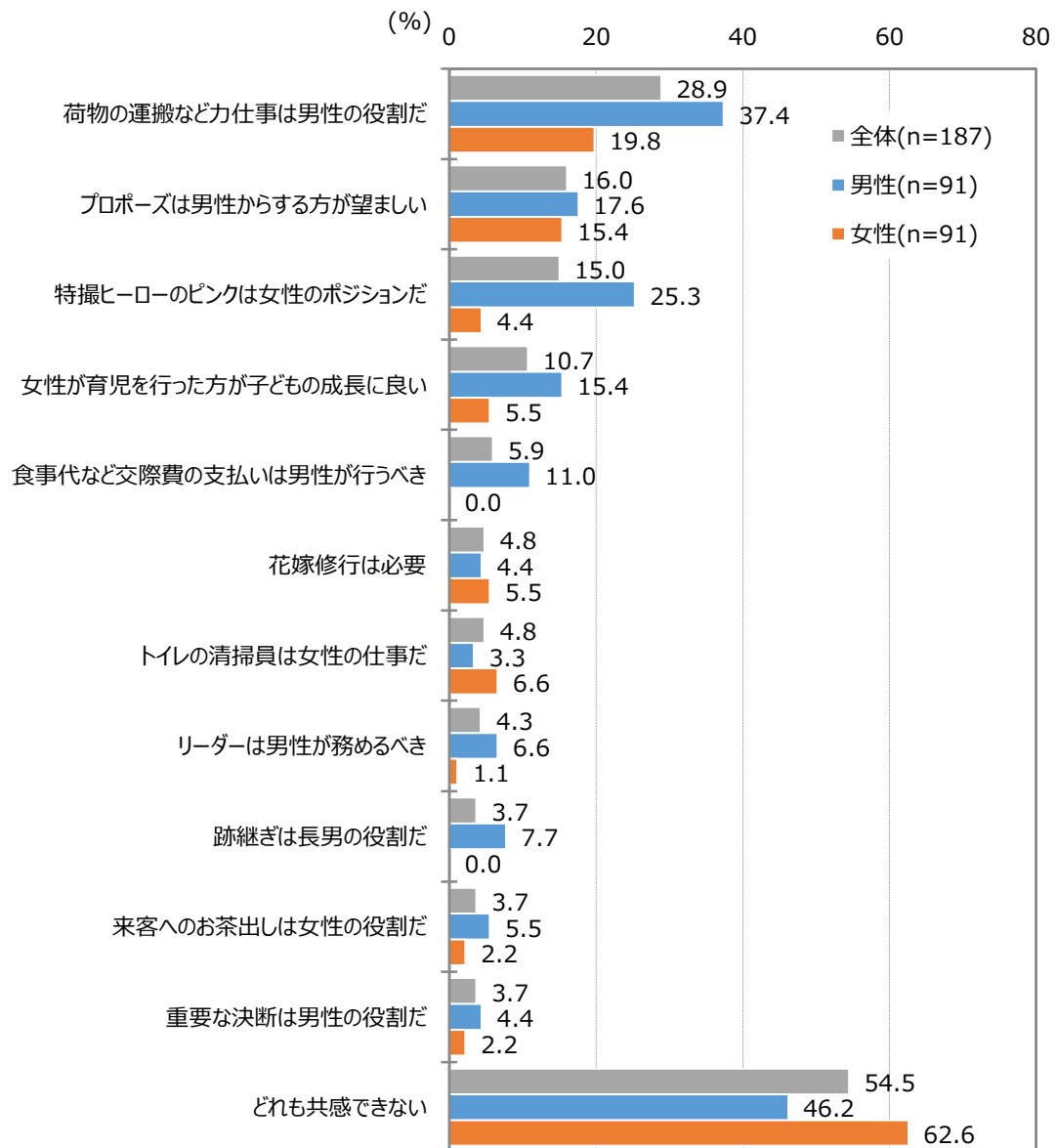
2. 男女共同参画意識

(1)性別による固定的な役割分担について

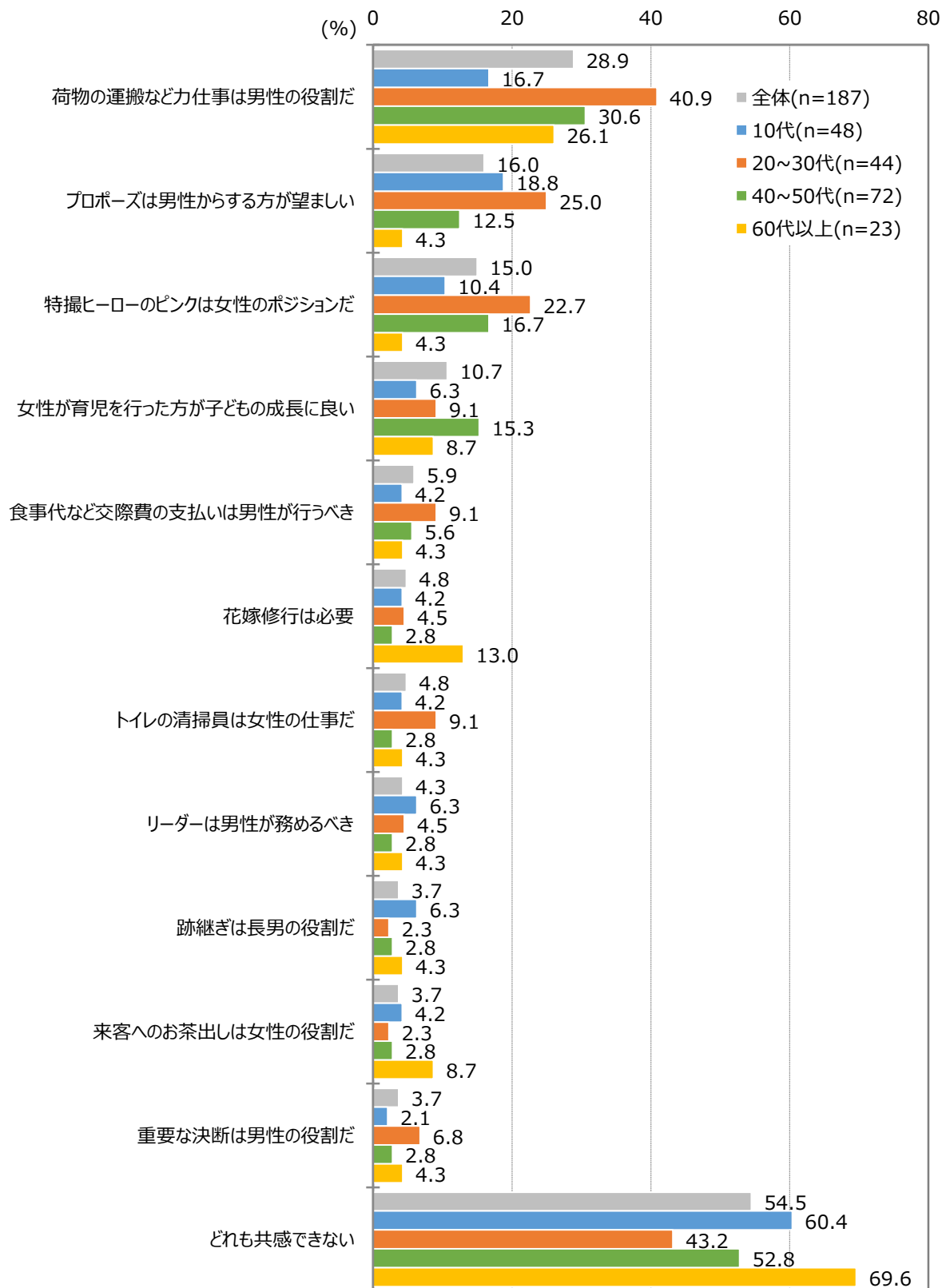
① 性別による固定的な役割分担意に対する意識について

- 全体でみると「どれも共感できない」(54.5%)が最も多く、次いで「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」(28.9%)が多い。
- 性別でみると、「どれも共感できない」「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」「特撮ヒーローのピンクは女性のポジションだ」「女性が育児を行った方が子どもの成長に良い」については、男女間で差があり、男性のほうが固定的な役割分担に対する意識が強い。
- 年齢区分でみると、いずれの年齢区分においても「どれも共感できない」が最も多いものの20～30代においては「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」「プロポーズは男性からする方が望ましい」「特撮ヒーローのピンクは女性のポジションだ」が全体に比べ多い傾向にある。また、10代においては「荷物の運搬など力仕事は男性の役割だ」が全体や他の年齢区分に比べて低い傾向にあるが、これは回答者の多くが学生であり、想定する力仕事が社会人と比べて限定的であることが影響している可能性がある。

【男女別の回答結果】

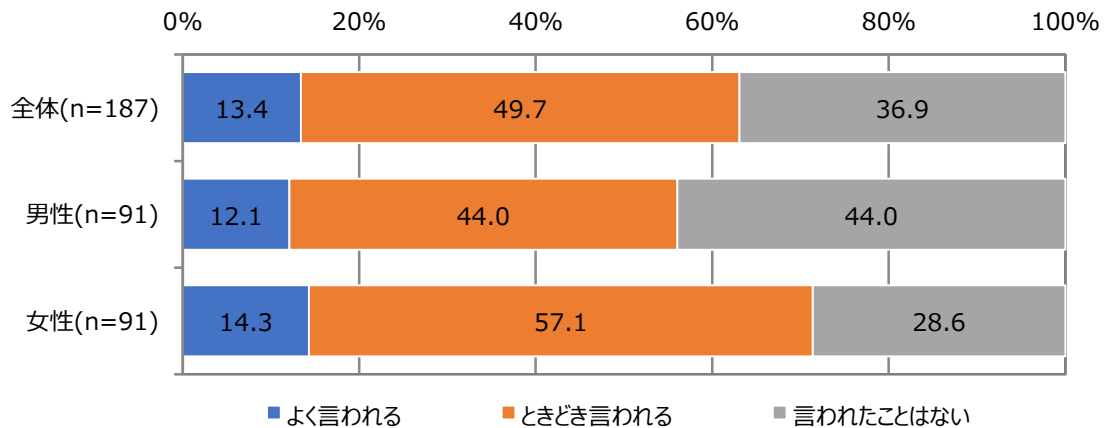


【年齢別の回答結果】



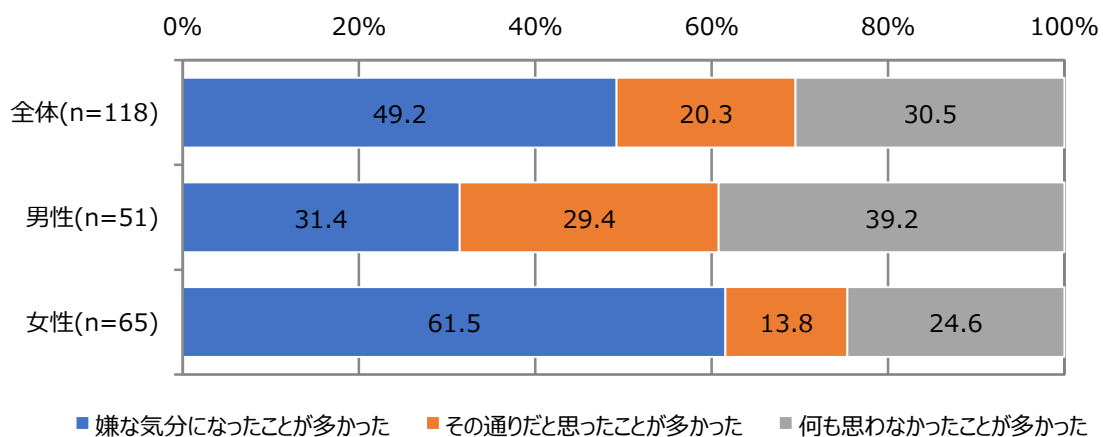
② 「女だから」「男だから」と言われたことがある市民の割合

- ・ 全体でみると、「ときどき言われる」(49.7%)が最も多く、次いで「言われたことはない」(36.9%)が多い。
- ・ 性別でみると、「ときどき言われる」「言われたことはない」については男女間で差があり、男性に比べ女性のほうが性差別的な発言を受けたことがある割合が高い。



③ 「女だから」「男だから」と言われた時にどう感じたか

- ・ 全体でみると、「嫌な気分になったことが多かった」(49.2%)が最も多く、次いで「何も思わなかったことが多かった」(30.5%)が多い
- ・ 性別でみると、特に「嫌な気分になったことが多かった」の割合が男女間で大きな差があり、男性に比べ女性のほうが嫌な気分になったことが多くあることが伺える。

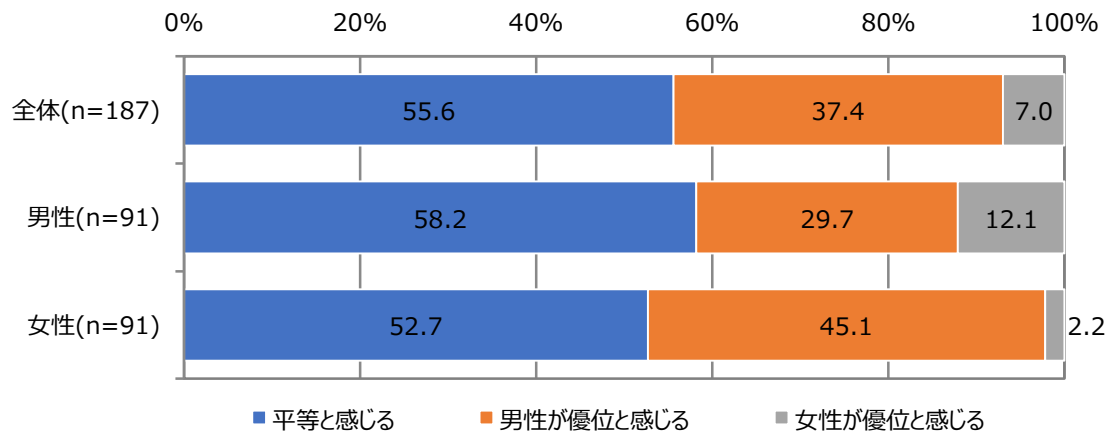


(2)家庭における男女共同について

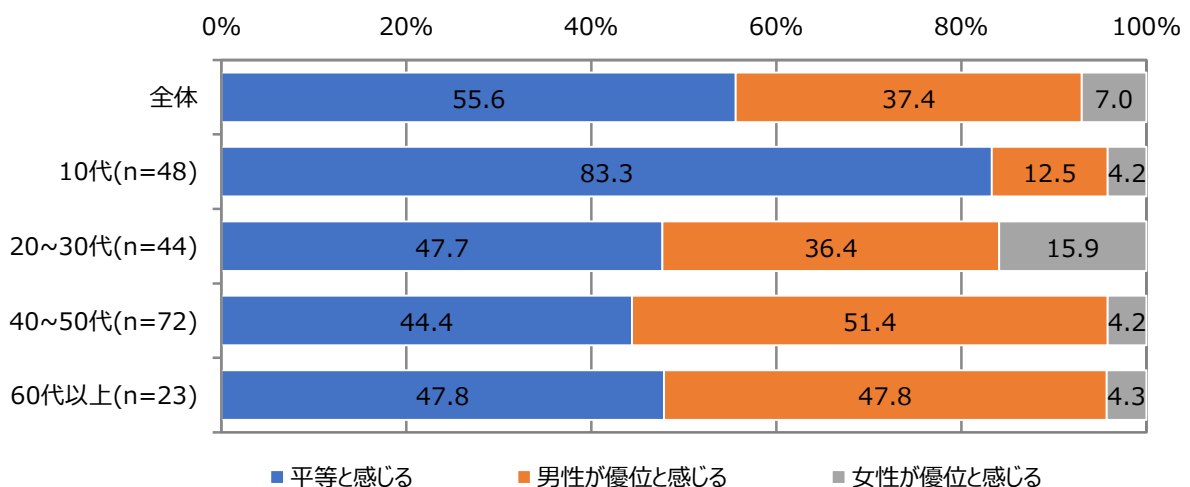
① 家庭において男女が平等であると感じている市民の割合

- ・ 全体でみると、「平等を感じる」(55.6%)が最も多く、次いで「男性が優位と感じる」(37.4%)が多い
- ・ 性別でみると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。
- ・ 年齢区分でみると、10代においては「平等を感じる」が全体や他の年齢区分に比べて多い傾向にあるが、これは回答者の多くが学生であり、家庭での家族の様子を評価した結果である可能性がある。20～30代は全体と同様の傾向であるが、40代以上では、「男性が優位と感じる」が多い傾向である。

【男女別の回答結果】

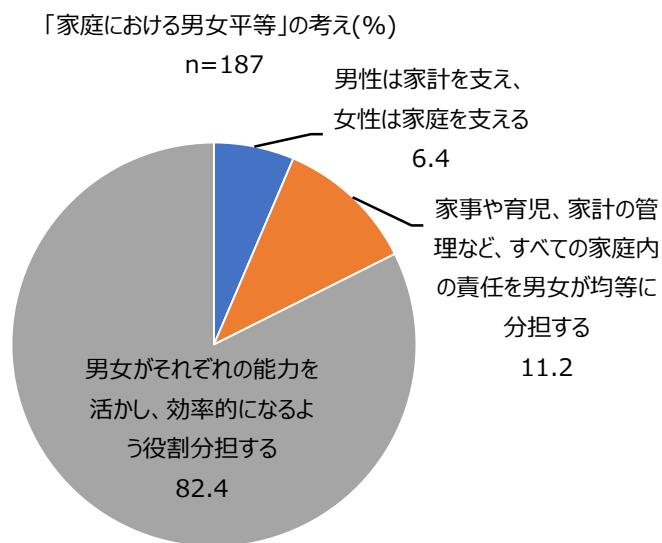


【年齢別の回答結果】

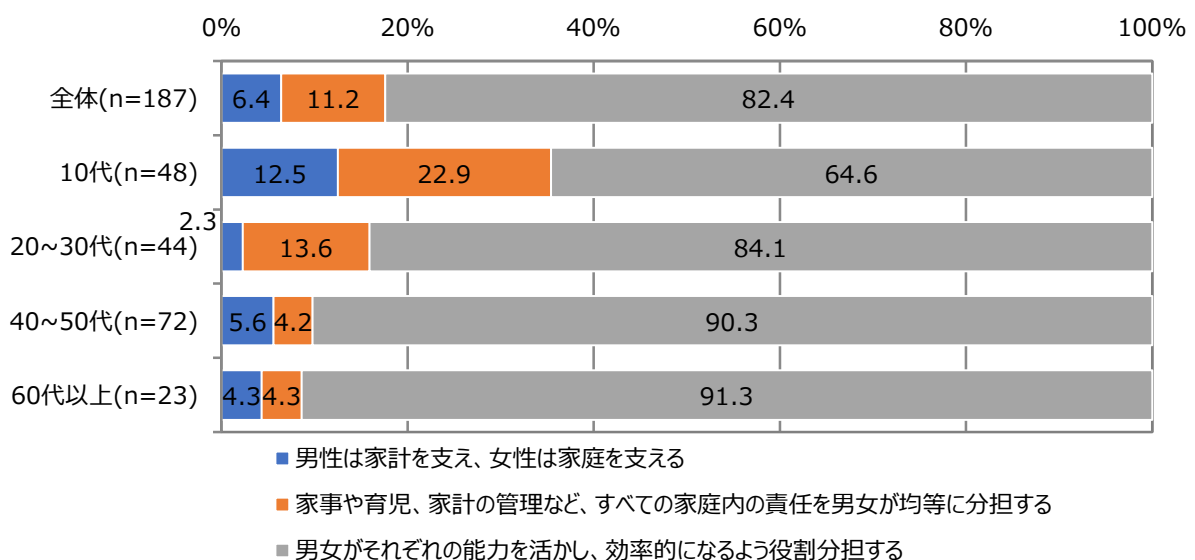


②「家庭における男女平等」の考え方

- ・ 「男女がそれぞれの能力を活かし、効率的になるよう役割分担する」(82.4%)が最も多い。
- ・ 年齢区分でみると、20代以上では全体と同様の傾向にあるが、10代においては全体や他の年齢区分に比べ「男性は家計を支え、女性は家庭を支える」「家事や育児、家計の管理など、すべての家庭内の責任を男女が均等に分担する」が多いのが特徴的で、学生と社会人とで家庭における男女平等の考え方に差があることが伺える。

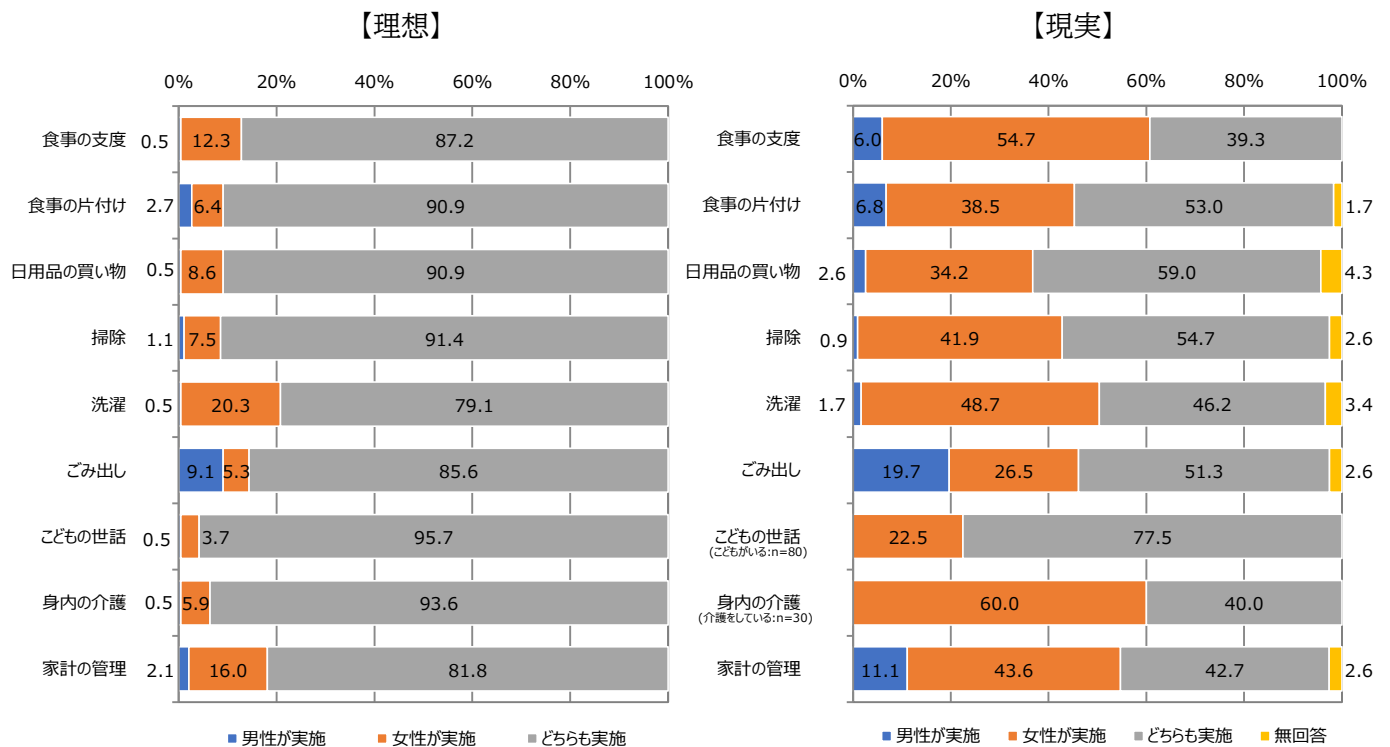


【年齢別の回答結果】



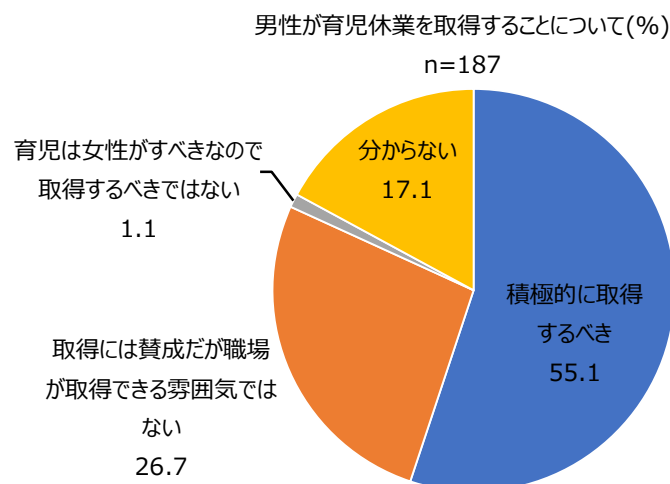
③ 家庭におけるパートナーとの役割分担

- 理想をみるといずれの項目についても「どちらも実施」が約8割以上であるが、現実をみるといずれの項目についても「男性」よりも「女性」が実施している割合が高く、理想と現実乖離がある。



④ 男性が育児休業を取得することに対する考え

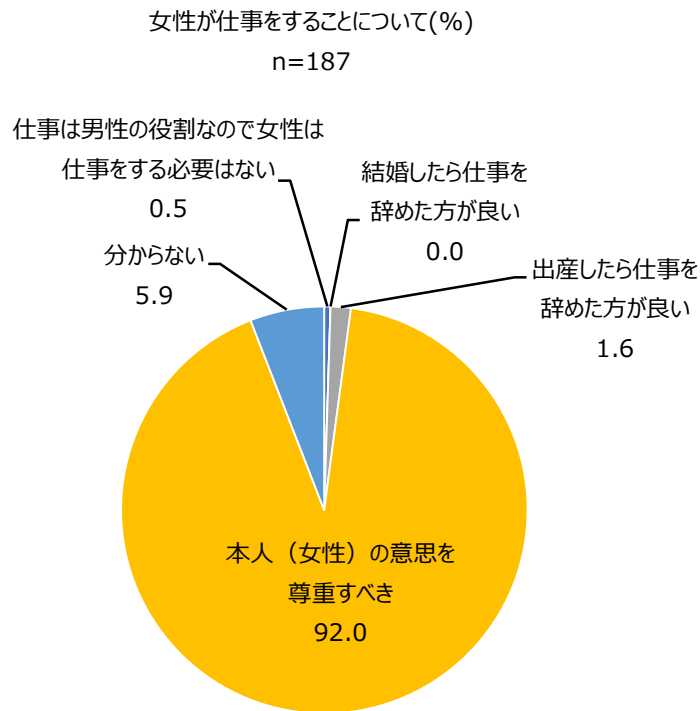
- 「積極的に取得すべき」(55.1%)が最も多く、次いで「取得には賛成だが職場が取得できる雰囲気ではない」(26.7%)が多い。



(3)女性の仕事について

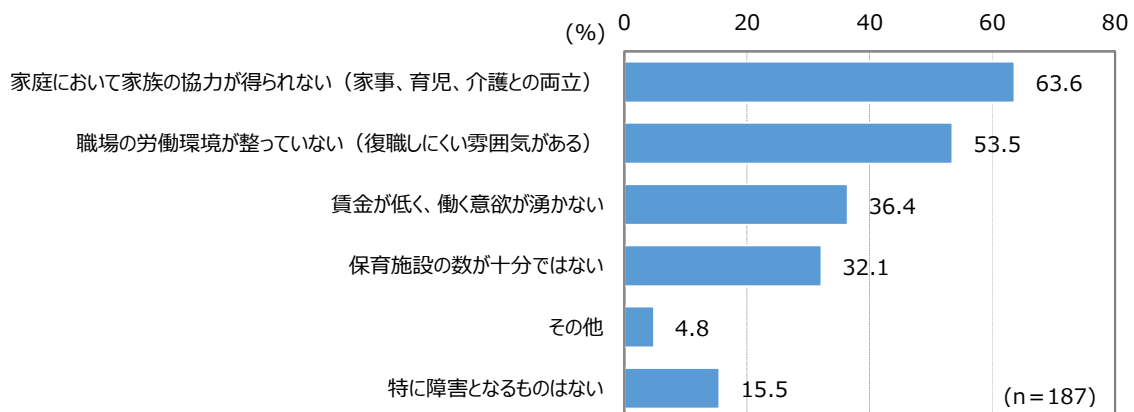
① 女性が仕事をするに対する考え

- ・ 「本人（女性）の意思を尊重すべき」（92.0%）が最も多い



② 女性が仕事を続けるうえで障害となっているものは何だと思いませんか

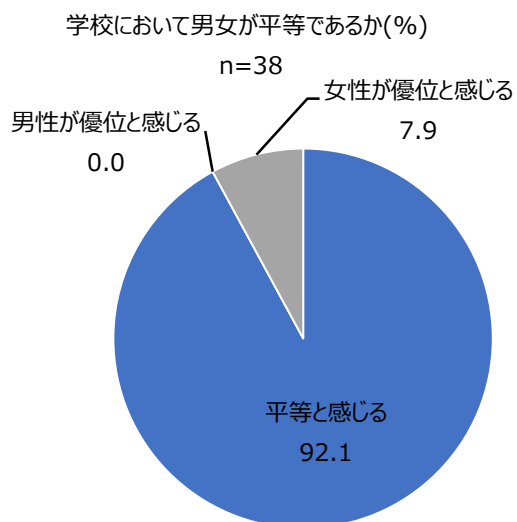
- ・ 全体でみると、「家庭において家族の協力が得られない（家事、育児、介護との両立）」（63.6%）が最も多く、次いで「職場の労働環境が整っていない（復職しにくい雰囲気がある）」（53.5%）が多い。「特に障害となるものはない」は 15.5%に留まっている。
- ・ 回答者の 8 割以上は、女性が仕事を続けるうえでは何らかの障害があると認識していることが伺える。



(4)学校における男女共同について(回答は学生のみ)

① 学校において男女平等であると感じている割合

- ・ 「平等と感じる」(92.1%)が最も多い。
- ・ いずれかが優位と感じると回答した回答者において、学校において男女差があることを尋ねたところ、「女性の生徒会長が少ない(3件)」「荷物の運搬など力仕事は男性が行うことが多い(2件)」となった。

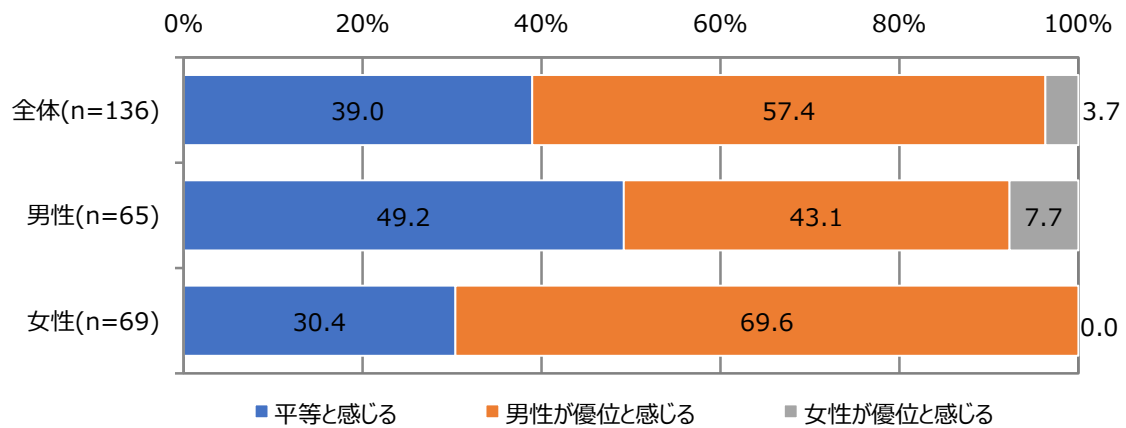


(5)職場における男女共同について(回答は学生以外のみ)

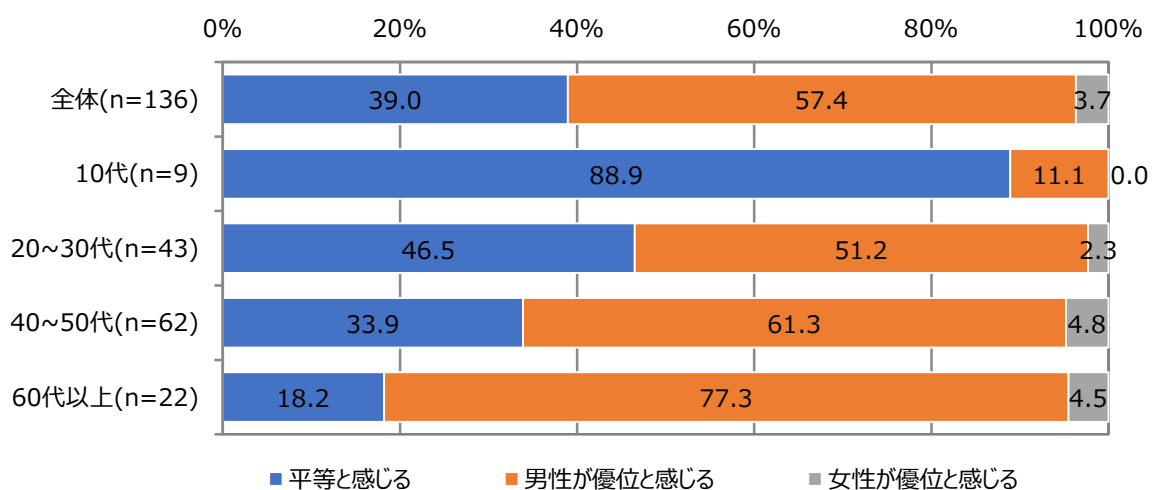
① 職場において男女平等であると感じている割合

- ・ 全体でみると、「男性が優位と感じる」(57.4%)が最も多く、次いで「平等と感じる」(39.0%)が多い。「女性が優位と感じる」は3.7%に留まった。
- ・ 性別でみると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。
- ・ 年齢区分でみると、20代以上では年齢が上がるほど「平等を感じる」が少なくなり、「男性が優位と感じる」が多くなる傾向がみられる。

【男女別の回答結果】



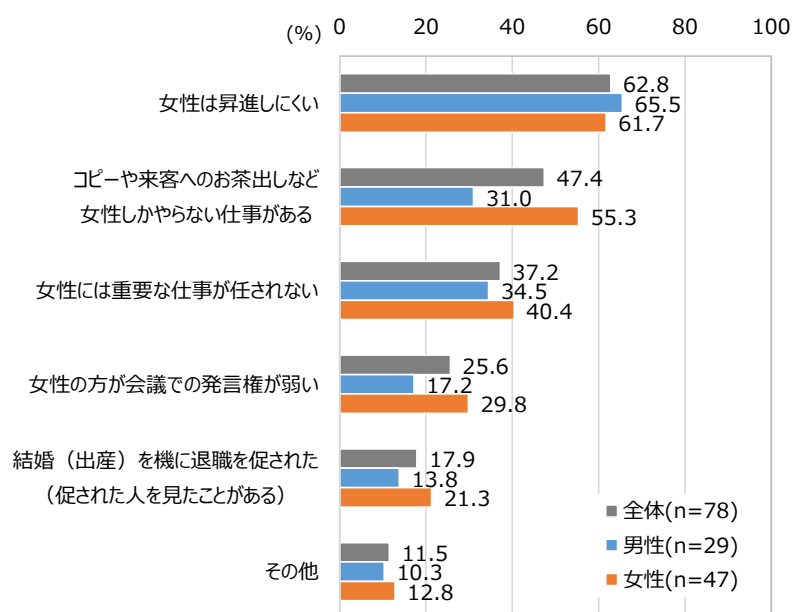
【年齢別の回答結果】



② 職場における男女差

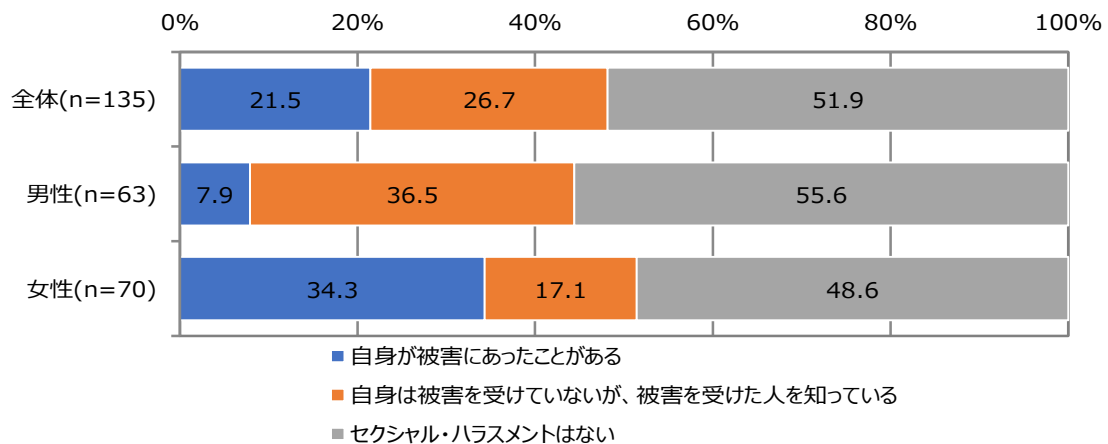
- ・ 全体でみると、「女性は昇進しにくい」(62.8%)が最も多く、次いで「コピーや来客へのお茶出しなど女性しかやらない仕事がある」(47.4%)、「女性には重要な仕事が任されない」(37.2%)が多い。
- ・ 性別でみると、特に「コピーや来客へのお茶出しなど女性しかやらない仕事がある」の割合が男女間で大きな差がある。

【男女別の回答結果】



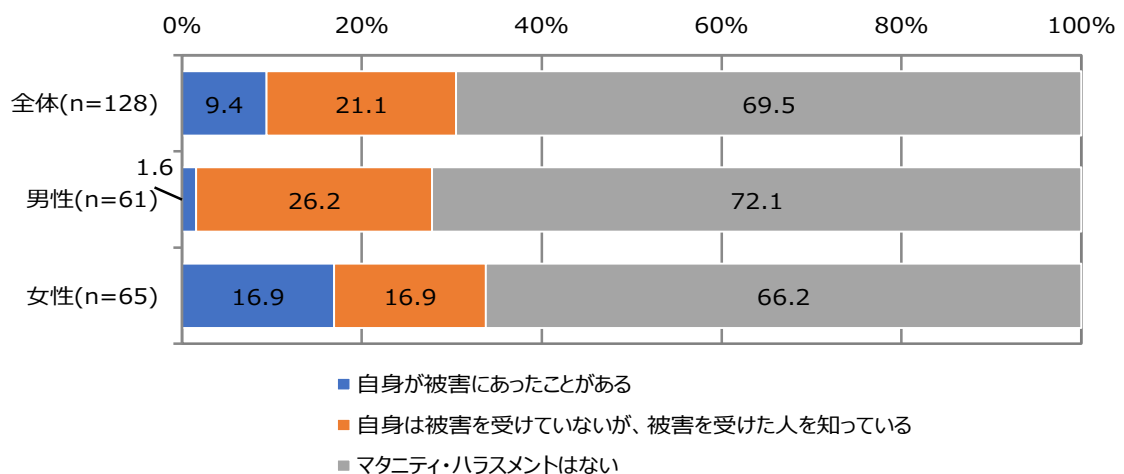
③ 職場でのセクシャル・ハラスメント被害の実態

- ・ 全体でみると、「セクシャル・ハラスメントはない」(51.9%)が最も多く、次いで「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」(26.7%)、が多い。また「自身が被害にあったことがある」が2割以上いる。
- ・ 性別でみると、「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」「自身が被害にあったことがある」の割合が男女間で大きな差があり、男性に比べ女性では回答者自身が被害にあったことがある場合が多い。



④ 職場でのマタニティ・ハラスメント被害の実態

- ・ 全体でみると、「マタニティ・ハラスメントはない」(69.5%)が最も多く、次いで「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」(21.1%)、が多い。また「自身が被害にあったことがある」が1割程度いる。
- ・ 性別でみると、セクシャル・ハラスメント被害ほどではないものの「自身は被害を受けていないが、被害を受けた人を知っている」「自身が被害にあったことがある」の割合が男女間で差があり、男性に比べ女性では回答者自身が被害にあったことがある場合が多い。

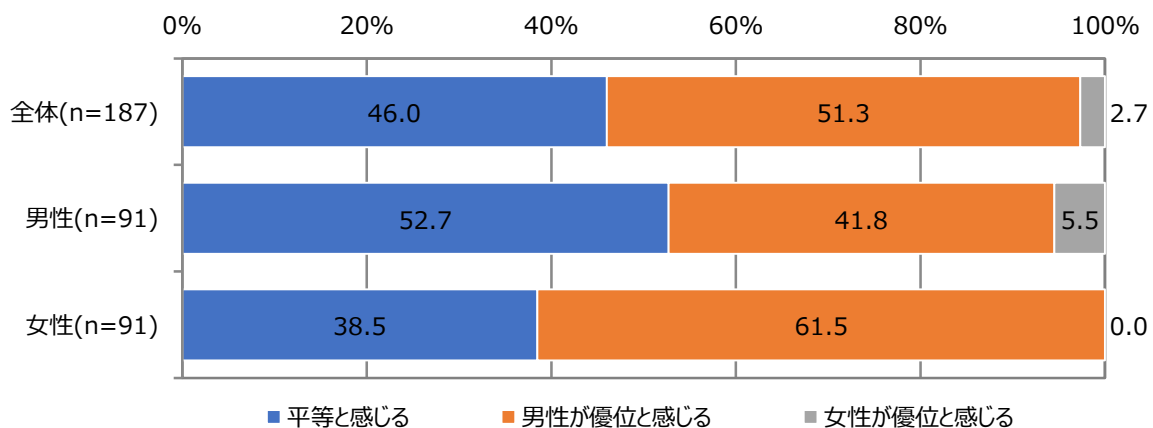


(6)地域社会における男女共同について

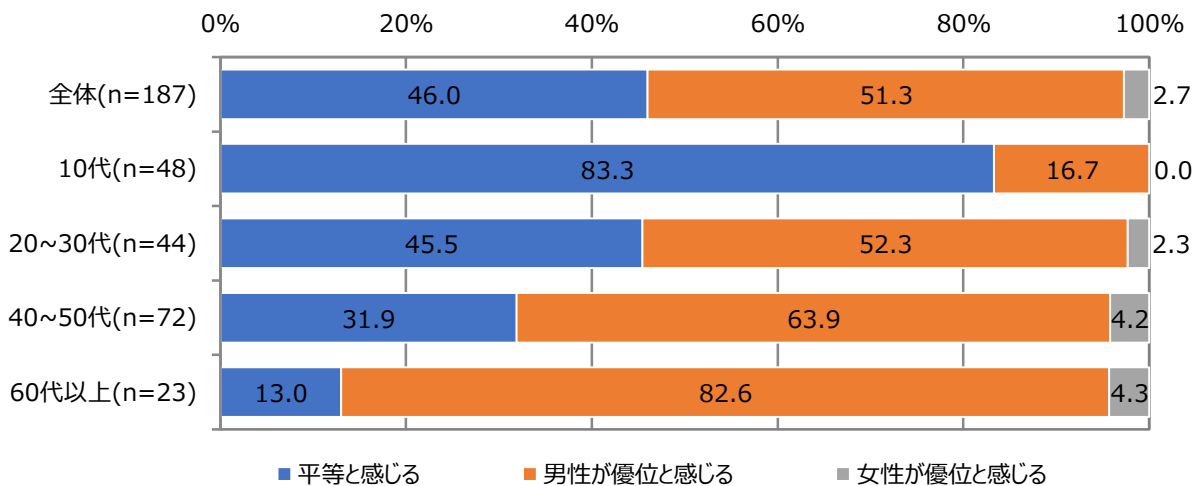
① 町内会活動やサークル活動など家庭・職場以外の環境において男女平等であると感じている割合

- ・ 全体でみると、「男性が優位と感じる」(51.3%)が最も多く、次いで「平等と感じる」(46.0%)が多い。
- ・ 性別でみると、特に「男性が優位と感じる」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が男性優位と感じている。
- ・ 年齢区分でみると、10代では「平等を感じる」が全体や他の年齢区分に比べ多いが、回答者の多くが学生であり地域社会との関わりが限定的であることが影響している可能性がある。また、20代以上では年齢が上がるほど「平等を感じる」が少なくなり、「男性が優位と感じる」が多くなる傾向がみられる。

【男女別の回答結果】



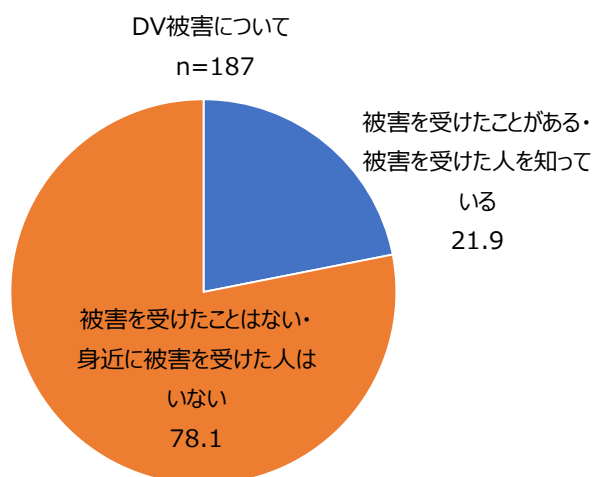
【年齢別の回答結果】



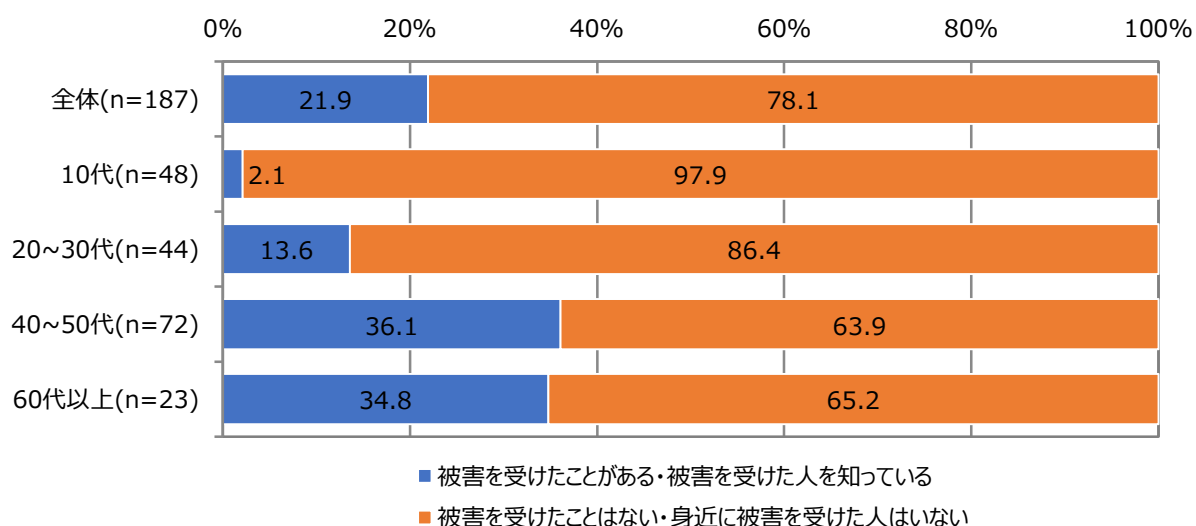
(7)DV被害について

① DV被害の実態

- ・ 「被害を受けたことはない・身近に被害を受けた人はいない」が78.1%、「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」が21.9%となった。
- ・ 年齢区分でみると、10～30代においても「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」は一定程度みられるものの、40代以上になると「被害を受けたことがある・被害を受けた人を知っている」が一段と多くなる傾向がみられる。

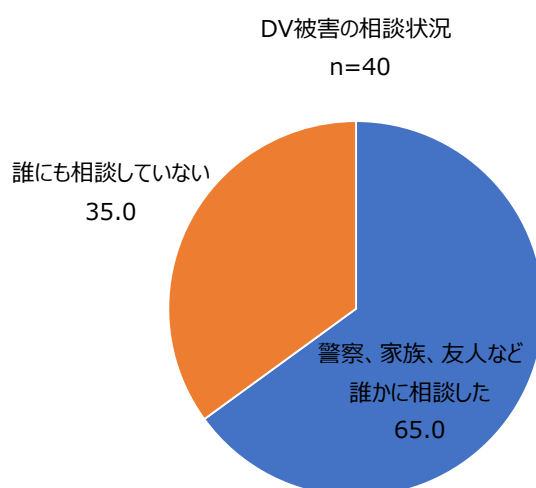


【年齢別の回答結果】



② DV被害の相談状況

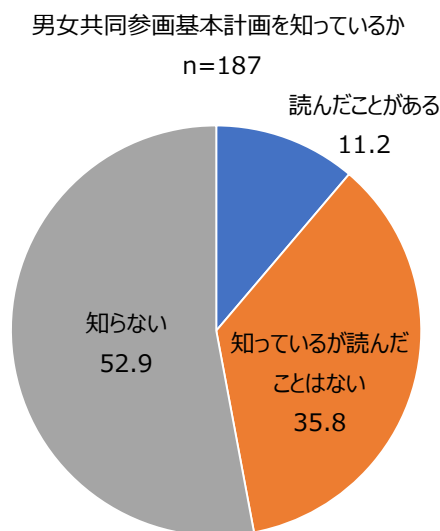
- ・ 「警察、家族、友人など誰かに相談した」が65.0%、「誰にも相談していない」が35.0%となった。
- ・ DV被害を相談しなかった理由は、「相手に相談した事が知られることで暴力がひどくなるなど、今後の事を考え我慢するしかないと思ったから」(5件)、「相談しても無駄だと思ったから」(4件)、「恥ずかしくて誰にも知られたくなかったから」(1件)、その他(5件)となっている。



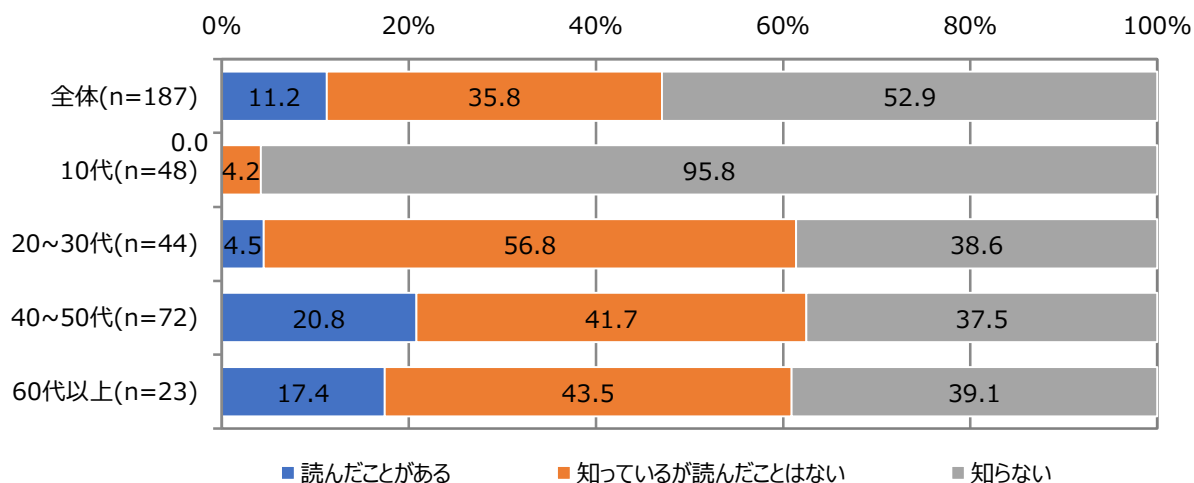
3. 根室市の男女共同参画について

(1)根室市男女共同参画基本計画を知っている市民割合

- ・ 根室市男女共同参画基本計画を「知らない」(52.9%) が最も多く、次いで「知っているが読んだことはない」(35.8%)が多い。「読んだことがある」は約1割に留まっている。
- ・ 年齢区分でみると、10代のほとんど、他の年齢区分においては約4割が「知らない」状況にある。20～30代の約6割は計画を認知はしているものの読んだことがある回答者がわずかであり、40代以上になると計画を読んだことがある回答者が約2割に増えている。

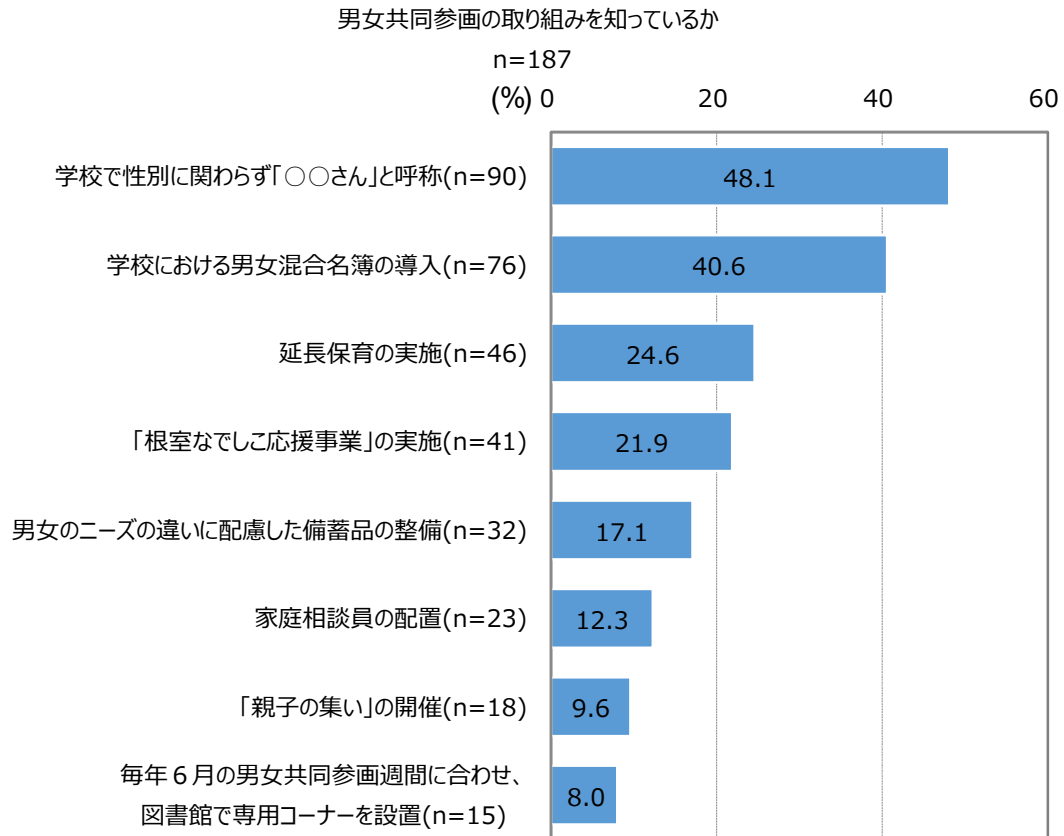


【年齢別の回答結果】



(2)根室市の男女共同参画の取り組みを知っている市民の割合

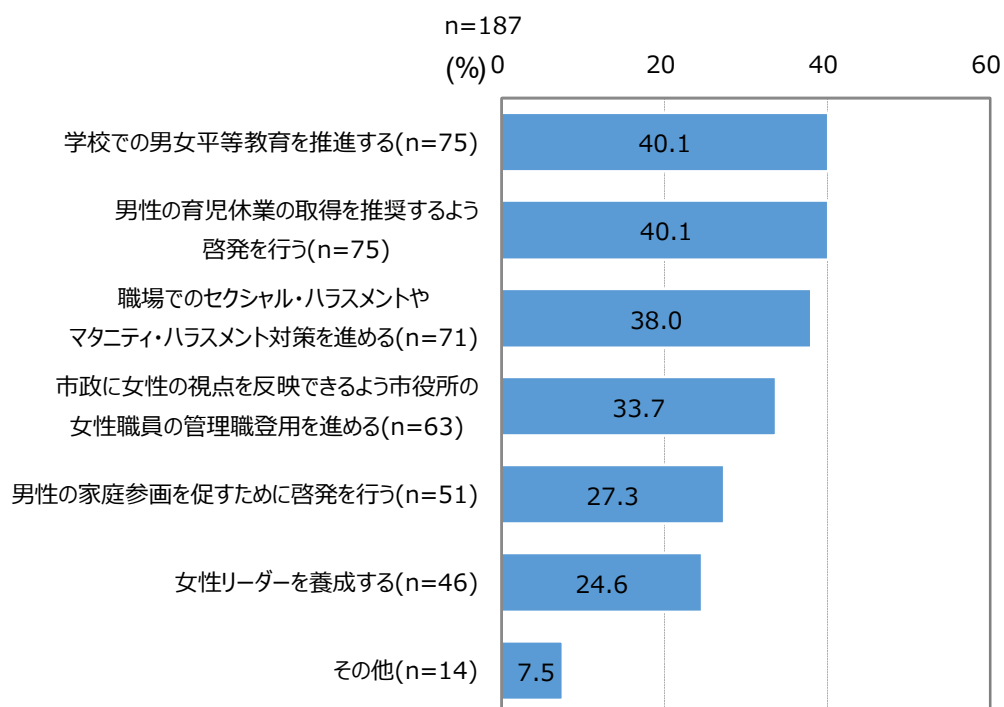
- ・ 「学校で性別に関わらず「〇〇さん」と呼称」(48.1%) が最も多く、次いで「学校における男女混合名簿の導入」(40.6%)が多い。



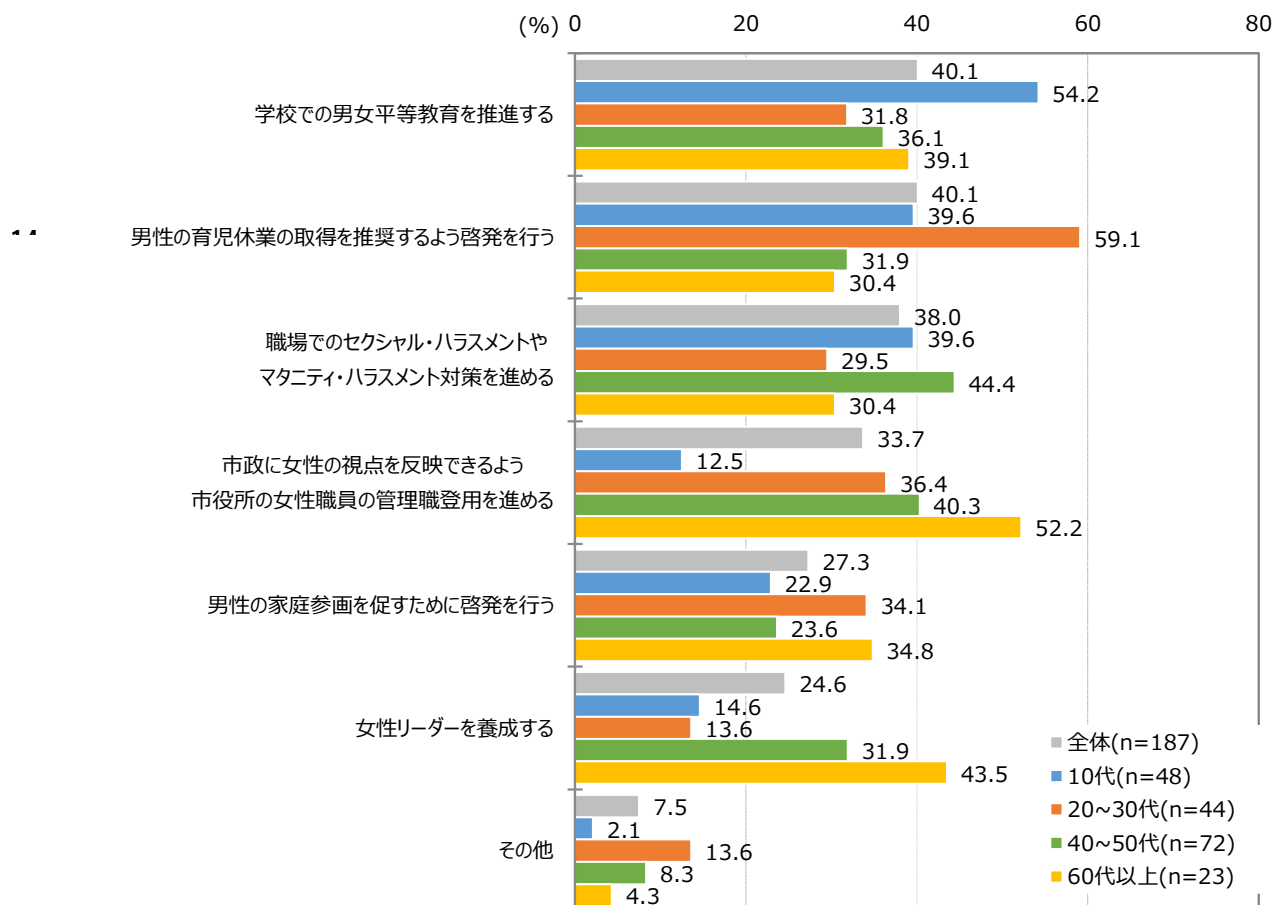
(3)根室市において男女共同参画社会を実現するために必要な取り組み

- ・ 「学校での男女平等教育を推進する」(40.1%) および「男性の育児休業の取得を推奨するよう啓発を行う」(40.1%) が最も多く、次いで「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント対策を進める」(38.0%)が多い。
- ・ 年齢区分で最も多い回答をみると、10代では「学校での男女平等教育を推進する」、20～30代では「男性の育児休業の取得を推奨するような啓発を行う」、40～50代では「職場でのセクシャル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント対策を進める」、60代以上では「市政に女性の視点を反映できるよう市役所の女性職員の管理職登用を進める」と各区分で回答が異なるという特徴がみられる。

男女共同参画社会を実現するためにどのような取組が必要か



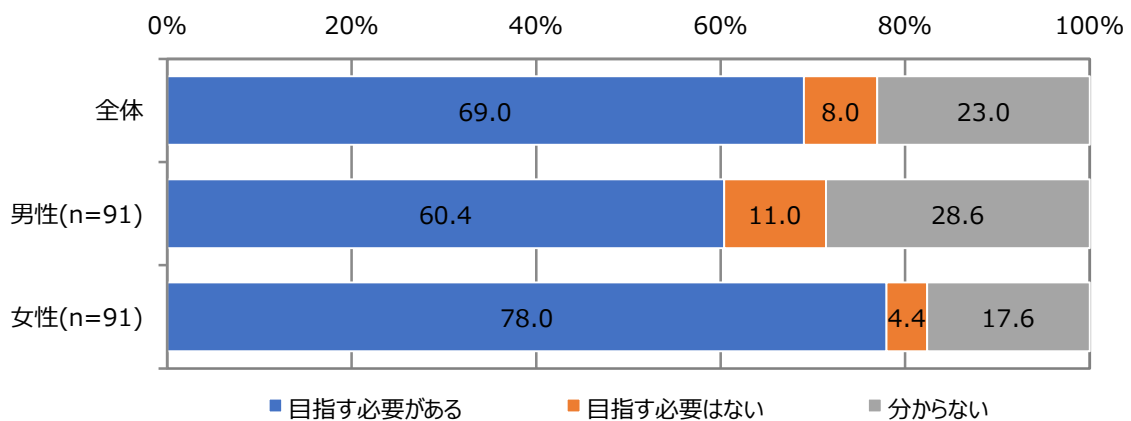
【年齢別の回答結果】



4. 多様性について

(1)一人ひとりの多様性が尊重される社会を目指す必要性について

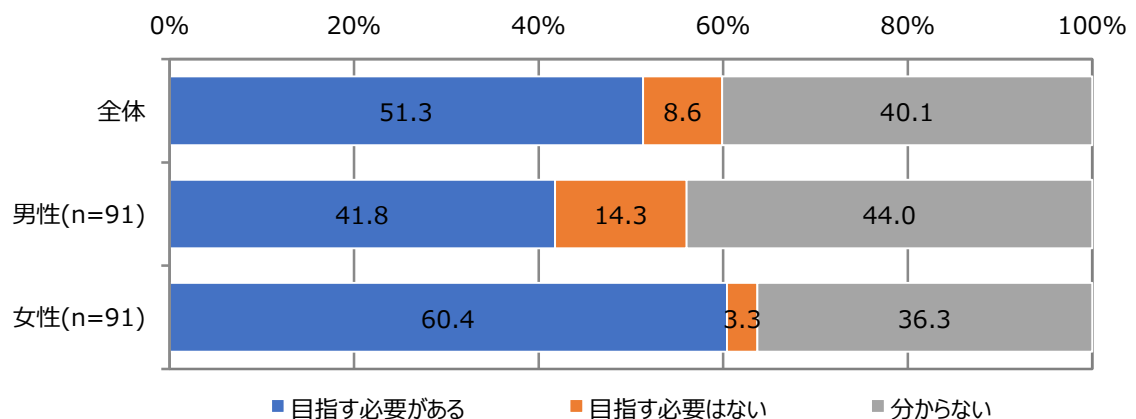
- ・ 全体でみると、「目指す必要がある」(69.0%)が最も多く、次いで「わからない」(23.0%)が多い。
- ・ 性別でみると、特に「目指す必要がある」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性が多様性が尊重される社会を目指す必要性を感じている。



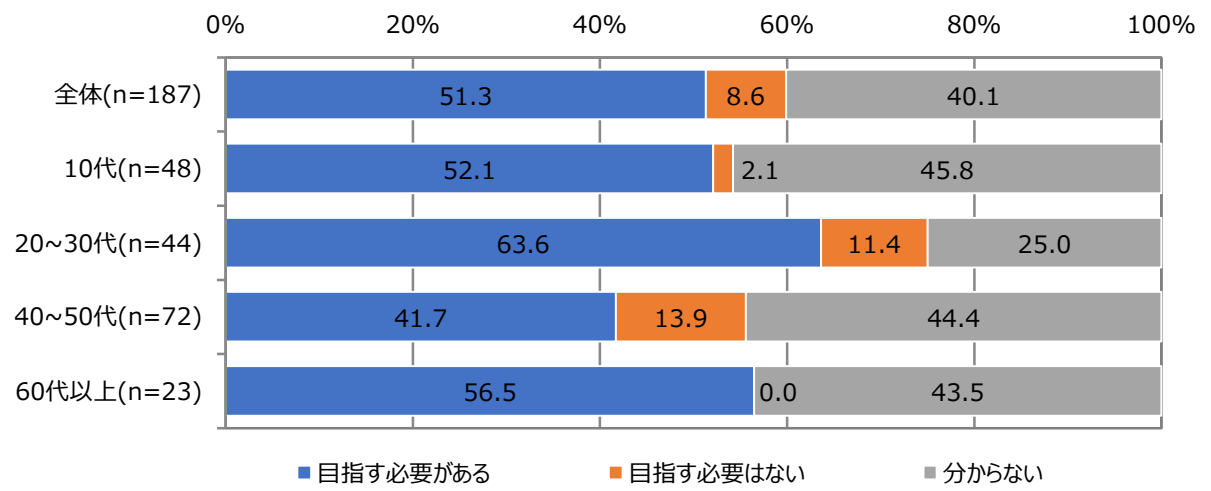
(2)パートナシップ制度の導入を目指す必要性について

- ・ 全体でみると、「目指す必要がある」(51.3%)が最も多く、次いで「わからない」(40.1%)が多い。
- ・ 性別でみると、特に「目指す必要がある」の割合が男女間で大きな差があり、男性以上に女性がパートナシップ制度導入を目指す必要性を感じている。
- ・ 年齢区分でみると、20～30代では全体や他の区分に比べて「目指す必要がある」が多くなっているのが特徴的である。

【男女別の回答結果】



【年齢別の回答結果】



5. その他意見、自由意見

・ 参考として主だったものを列挙

20 代 男性	生物学的に男女に違いがあることは明確なので、完全なる男女平等は無理である。男女共同参画社会の実現は重要視する部分では無い。
20 代 女性	根室市役所に勤務している男性職員がまず、男女平等や妊娠出産についてきちんと理解をし、相手の気持ちを考えられない様な発言、女性を不利にするような発言をしないように徹底するべきだと思います。市民に、セクハラ、パワハラ、マタハラだと言いたいなら、まず市役所の職員から徹底したらどうですか？市役所内でその様な事実がないと思ってるなら大間違いですよ。どうか根室市も女性が働きやすく、妊娠出産後の復帰がしっかり出来る女性の生きやすい市にしてください。せっかく市長が子育て支援しっかりしてくださってるんです。その子育てをしてる親たちも働きやすい社会になることを願ってます。
30 代 男性	賃金が少なく、主婦や主夫を選択できない社会構造に問題がある。女性でも男性でも仕事よりも家庭を優先したい人がいるのに、そこを無視して社会に出させようという動きが少子化を推進させていることに気づいていない。そして、一度辞めても復職しにくい人事制度や、能力を活かせる職場が不足していることも人口の流出を助長している。
40 代 男性	根室市では、市職員全体の男女割合に比率に比べ、女性管理職の比率が非常に低くなっている。行政が積極的に指導的地位に占める女性の割合を増やすことで、ロールモデルとなり民間企業への波及効果を期待する。また市の主催する会議においてもどちらか少ない方の性別を少なくとも3割以上入れることをガイドラインとして定め、パリテを導入していくといった具体的な取り組みを行うことが必要である。
40 代 女性	掃除を手伝ってくれない。ゴミをまとめて捨てたりしないといけない。国家資格を取得しても配置転換してくれない。20年以上の勤続年数なのに年下の年数も下の男性高卒者と給料の差がさほどない。
40 代 女性	自営業が多い地域なので男性優位が強いと思う。年配の方達は、男性に向かってしか話さないし女性や年下の人の話を聞いていない。意味のない年功序列や嫁いびりも強い。女性が発言すると白い目で見られる。家業の家に女の子が産まれると跡継ぎがいらないと考える。外国人差別あり。まずは実現に向けて柔軟な理解を深めるところから
40 代 女性	市役所で女性管理職を増やしても、漁協をはじめとする市内企業も同じように取り組まなければ、根室市の男女差はなくならないと思う。新しいことを受け入れない街の雰囲気を変えられるような取り組みができると良いのにと 생각합니다。
40 代 女性	まずは市役所のような市民へ状況が伝わりやすいところから管理職の男女比、各種会議の参加比率などを平等にしていこうようにして欲しい。また、女性が結婚、出産などで環境が変わっても働きやすい環境を用意して欲しい。若い人や女性など立場が弱くなりがちな人の意見をすくい上げて欲しい。

50 代 男性	市役所自体がハラスメントの塊だと思う。市役所を訪れる市民に対する対応や言葉使いなど。市役所職員は公務員としての立場を利用しすぎだと思う。市役所職員は市民の目線で物事を考えるべきであるとおもう。所詮男は男、女は女、どちらもどれだけ努力しても異性に近づく事はできないが、何かをする時は互いの利点を共有する事は出来ると思う。単に男女平等と言うのではなく利点の活用じゃなかなって思う。最後にこのアンケートを作成した人達に言いたい、アンケートの作り方が素人で所詮公務員。このアンケートでは何も変えられないのでは？
50 代 女性	根室市は地域のジェンダー平等ができていない。第一次産業の街なので役割分担としてしかたない部分もありますが、もう少し、男性優位な部分を理解し、次世代の夫婦に口出しせず、嫁だから、妻だから、母だから、私もかつてそうしたからと古い体質を押し付けないでほしいです。
50 代 女性	男女共同参画もダイバーシティも同性婚も人種もすべて、「個人の尊重」だと思います。ひとりひとりが自分の人生を自分らしく生きるために、他者への理解や愛情を持てる社会こそがすべての人にとって生きやすい社会ではないでしょうか。人は知らずに傷つけることもあります。セクハラやマタハラなどは、知らずにやってしまう人も多いかもしれません。やってしまう側を一方的に責める気はありませんが、やってしまう側が気づくことがとても重要です。気づきがあって初めて、社会は進歩すると思います。差別が社会問題になるアメリカなども、歴史を振り返ると差別との闘いが今でも続きながらも、憲法の解釈や新しい法律ができ、年々多様な生き方を認める方向へと進歩しています。女性の立場からすると、まだまだ根室は気づきが少ないと感じます。日本という国自体が世界的に見ると女性の社会的地位が低いとされています。この国で先駆的な取り組みを始めることは壁が高いのも理解できますが、根室市が他の市よりも先行して多様な人の人生を尊重できる社会を作り上げる取り組みをすることができれば、若い人の移住なども増えるのではないのでしょうか。地域社会という小さなコミュニティで、新しい仕組みに果敢に取り組む姿勢は、必ず評価され街の将来にも良い影響を与えられます。具体的にどうしたら良いかはとても難しいですが、さきほど書いたように「気づく」こと、そして「取り組む姿勢を可視化する」ことが重要ではないかと思います。男女共同参画を目指す姿勢も大切ですが、「結果を伴う姿勢の可視化」が必要です。つまり根室のような小さな街では、やはり市長のトップダウンや市役所改革は、広く市民の意識改革には有効だと思います。また「女性が活躍する姿の可視化」も重要です。市役所での女性の役職ももちろんですが、女性議員を増やすための施策（議員の性別割りあいを決めることも一案ではありますが、この点はまだ深く突き詰めていません）、市の事業の一部を女性をトップとした外部委託するなど。考えらえる施策はいくつも可能性があると思います。「可視化」をテーマに今後取り組みを進めていただければ、市民の意識も少しずつ変わっていき、女性が活躍するだけではなく、男性も女性も、性別や人種、障害などにも関係なく、全ての人に平等な機会が与えられる社会が構築できると思います。

60代女性	これからは多様性、主体性、ジェンダーなど重視されなければならないので、頑張って推進していただきたいです。
70歳以上女性	地域はまだまだ男性優位社会であると感じる。市役所でも、管理職の女性職員はほとんどいないし、様々な委員会、協議会でも女性が圧倒的に少ない。男性ばかり多いところで協議している社会が平等であるとはとても思えない。男女共同参画社会を真に目指すために、教育がとても重要であると考えている
70歳以上女性	根室市の取り組みとしては、まだまだ女性管理職が不足しているので、積極的に目指せる環境作りをしてほしい。
70歳以上女性	男女共同参画社会とかはかえって区別をしているような気がします。例えば女性管理職の登用…等は、仕事ができる人を管理職にすべきで、そこには男女の違いは無く、むしろ差別をしていると思えてしまいます。できる人ができることをする…そこには男女も年齢も関係ないというようになれば理想的だと思います。